

カツオ



生態的特徴等

【生態】

太平洋に広く分布しており、日本近海では春に上りカツオとして房総沖～三陸沖を北上索餌回遊し、秋には戻りカツオとして南下回遊する。春に北上する群は3歳、3 kg 程度までのカツオで、これより大きなものは亜熱帯～熱帯海域で産卵回遊する。成長は早く、1歳で尾叉長約45 cm、2歳で約60 cmになる(図1)。寿命は12歳以上、最大120 cmの報告もあるが、概ね8歳、80 cmくらいまでが漁獲されている。動物プランクトン、魚類、甲殻類、頭足類を餌とする。

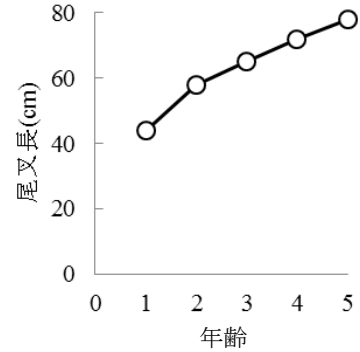


図1 カツオの成長

【漁法と盛期】

主に、近海竿釣やまき網により漁獲される。

常磐南部・鹿島灘海域では、初夏に北上する群、秋に南下する群の漁場が形成され、本県小型船の曳釣や、他県船の近海竿釣により漁獲される。

【利用】

EPA やビタミン D、鉄分を多く含む。刺身やタタキとして生食されるほか、缶詰やかつお節などの原料としても利用される。県庁所在地の1世帯当たりの消費量が全国3位と多いことから、県の旬の魚(夏)に選定されている(H7年)。

資源は高水準だが、減少傾向

(漁獲量) 近海竿釣による漁獲量は、H1～17年までは3～6万トン前後で推移していたが、H18年以降は減少傾向にある(図2)。R4年の漁獲量は、H1年以降で過去最低(7,484トン)となったが、R5年は前年より増加し、23,082トンとなった。

県内漁獲量についても減少傾向にあり、近年の漁獲量は非常に少ない(図3)。

(水準と動向) 国の資源評価(R4年度)によると、資源水準は「高位」、動向は「減少」となっている。

水準



(国)

動向



(国)

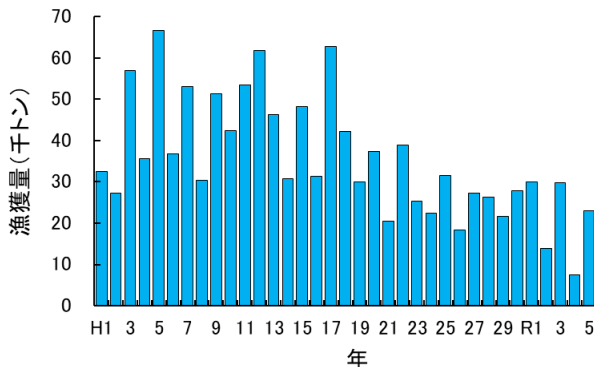


図2 東北主要港のカツオ漁獲量
千葉県から青森県沖で操業する近海竿釣の漁獲量

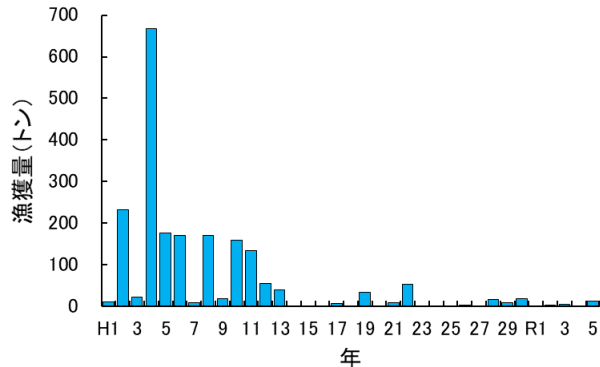


図2 茨城県のカツオ漁獲量
水試システム、まき網・近海竿釣りを除く全漁法、属地

【全国の漁獲動向】

- ・静岡県が漁獲量第1位。2位は宮城県、3位は東京都(R4農統)。

評価期間：令和4年1月～12月 更新日：令和6年3月27日